



児：「先生いくつ？」

私：「なんでそんなこと聞くん？」

児：「〇〇先生より若いかなと思って。」

私：「どうかな〜。」

児：「だからあ〜、いくつなんやって？」

私：「ん〜、いくつか忘れたよ。」

児：「うそつき、ケチ！」

私：「……………」



うそでもなくほんとうに忘れてしまったのです。最近、自分の年齢の1の位が思い出せない時があるのです。忘れてしまいたいから、記憶の奥底にしまいこんだのかもしれませんが。

「前はこんなことなかったのにな〜。」・・・現在から生年を引いてみます。

「そうか〜……………はあ=」

みなさんの中にも「私もそうだ。」「私にもそういうときがあるわ。」と思いが当たる方もいらっしゃるでしょうか？

体力も落ち、子どもたちを追いかけてちょっと走ったり、階段を急いで上ただけで息が切れる。昔のように無茶もきかなくなって、たった一泊の宿泊の引率もしんどい。お肌のハリもなくなってきたし…。何かこんな自分がとても情けなく、気持ちが沈んでしまいました。

その夜、テレビのドキュメンタリー番組でも話題となったガンと果敢に闘った女性の本を読んでいて思いました。今こうして生きていることに十分な幸せを感じ、『生きる』ということに余計な意味を求めずにいられる心がほしいなと。『生きにくい』と言われる世の中だからこそ、だれもが『生きている』ってことだけで心から喜びを感じられたら…どんなに幸せでしょう。

つまらぬことに頭を悩ませ、日常の生活に追われていても、たまには『生』や自分自身と向き合う時間と心の余裕を持ちたいと思います。夏休みには、ぜひ…。

